

令和元年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立横浜商業高等学校

調査全体の日程

調査日： 令和2年3月25日

調査対象校：横浜市立横浜商業高等学校

調査チーム：大澤 正俊 横浜市立大学国際商学部 学部長
大津 幸雄 南区社会福祉協議会 会長
山崎 直宏 南区青少年指導員協議会 会長
岡本 和子 南保護司会 会長
中川 正成 横浜商業高等学校PTA 会長

本校担当者 校長 磯部 修一
校長代理 増田 亨
副校長 高橋 司
副校長 清田 英美
主幹教諭 杉崎 敬一
教諭 阿部 英俊

記録等担当者 阿部 英俊

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

〈全体〉

- ・アンケートの結果から、概ね計画通りに進捗していると思われる。そうしたなかで、保護者のアンケート回収率だけが80%を満たしていなかったことが残念である。
- ・商業科、スポーツマネジメント科、国際学科の教育の特徴を意識した取組がなされ、大きな成果を出していると思われる。
- ・スポーツマネジメント科と国際学科が設置されていることで、学校全体に新しいことへチャレンジしている様子が伝わってくる。
- ・教職員の学校評価で、教育活動、学校経営の評価は、おおむね実現できている。その中でも、情報管理、危機管理に十分に力を入れられている様子が特に評価できると感じた。
- ・商業科、スポーツマネジメント科、国際学科のいずれの取組や成果についての報告を読んで安心した。また、それぞれ課題を掲げていることは、更なる進化につながるものと期待している。
- ・学校、先生方の取組は生徒本位の適切なものであり、生徒は学習面、特別活動や部活動に真摯に取り組んでおり、保護者は学校を信頼し生徒への支援を十分に行っている様子が見える。

〈商業科〉

- ・商業科の資格検定や様々なコンテストへのチャレンジは、合格や入賞という目に見える結果が出ることで、生徒のモチベーションを上げる良い取組だと思う。しかし、生徒たちは、合格や入賞という結果を求めることに集中してしまう傾向にあると思われる。すでに先生方は十分承知されていると思うが、資格試験準備の学習、コンテスト応募のための準備、それ自体が一番大切な「学び」であることについての指導をお願いしたい。
- ・課題研究発表会の中止は残念である。総合実践の課題として、現代ビジネスに必要な力をつけさせるものへ改善とあるが、具体的な改善案が求められる。
- ・南区内の老人クラブとの交流事業は、大切な経験をされる機会だと思う。今後もぜひ続けてほしい。

〈スポーツマネジメント科〉

- ・課題に「保護者に対して学校の様子が伝わらないことが多いようなので検討が必要である」と記されている。伝える内容や伝え方の改善をお願いしたい。
- ・体育系より経済経営系への進路選択をする生徒が多いとあるが、入学時の生徒の認識と入学後の授業カリキュラム等に差があり、生徒が「こんなはずではなかった」と感じるのではないか。商業高校としての立ち位置の中で、スポーツマネジメント科がどのようにとらえているのか、生徒・保護者への情報発信が求められる。

〈国際学科〉

- ・国際学科のYSFの取組は、アクティブラーニングとして大変興味深い。しかし、アクティブラーニングとはいえ、やはり、担当される先生方の準備、特に行政機関との連携のための交渉など、担当されている先生が御苦労されていると推察している。是非とも担当されている先生のサポート体制を充実させ、YSFがますます発展することを願っている。
- ・振り返りシートへのフィードバック不足、GLにおける教員の支援の仕方の課題等、生徒より教員の方の在り方に課題があると感じる。生徒の大事な進路に向けて、言葉かけなどをお願いしたい。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況について

- ・古典A・Bについては、大学入試科目という視点からの検討が主になるかと思う。他方で、外国人とのコミュニケーションにおいて、自国の文化を英語で説明する能力も必要になる機会も出てくる。古典については、「日本文化」を知るという視点なども含め、検討をしていただければと思う。
- ・スポーツマネジメント科、国際学科とも今風のネーミングであり、入学してきた生徒が思っていたものと違うと感じることのないよう、事前の情報発信、入学後の大学受験を踏まえたカリキュラムなど考えていただきたい。
- ・「生徒学校評価」は、学校生活が充実したものであることを回答は「そう思う」「ややそう思う」に集約されていると思われる。「保護者学校評価」も同様の答えである。
- ・グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを授業に取り入れていることがよい。

□生徒指導・教育相談の状況について

- ・「特別活動・部活動の状況」で、生徒会活動や委員会活動を主体的に行っていると考える生徒の割合が約70%という結果については、他のアンケート結果よりは数値が低いように見えるが、決して悪い結果であるとは思わない。主体性の希薄化は、日本の小中高大生全体の問題で、改善するには小学校教育から検討すべきと思われるので、高等学校教育で可能な範囲での改善に努めていただければと思う。
- ・「進路指導」については、商業高校でありながら、入試が難しくなり偏差値が高い生徒が入学してきて、大学への進学希望も高くなっていると思われる。
- ・南区には四大祭りがあり、区民と行政(区役所)が共同して実施している。毎年、桜まつりと南まつりには多くの部活動が参加してくれている。他団体の参加を促す起爆剤になっている。Y校には多くの部活動があるが、野球部やボート部、茶道部などは特に思い入れがある。

□保健指導及び環境美化の状況について

- ・「進路指導の状況」と「保健指導及び環境美化の状況」では、保護者に進路指導、健康指導の状況が若干ではあるが、うまく伝わっていないように思われる。生徒の個人情報が含まれる内容だが、保護者が学校からの的確に生徒の状況を伝えてもらえたと感じるような伝達方法を御検討いただければと思う。
- ・とても良い評価から、生徒の健康管理に関する適切な指導がなされていると感じられる。

3 学校経営の状況

□教育目標等の設定・実施状況について

- ・「教職員研修」の整備について、先生方が正規教員数の少ないなかで、教育はもちろんのこと、すべての業務について寝食を忘れるほどに、全力で取り組んでいることは十分承知している。また、そうしたなか、働き方改革法案が成立し、限られた勤務時間内に研修を設定することがどれだけ難しいことであるかも理解しているつもりである。しかし、研修によって先生方が得る知見も少なくないはずである。特に、経験年数の少ない先生方が研修によって教師力を高めることができれば、指導を受ける生徒に良い影響を与え、保護者の安心感や信頼にもつながると思われる。

□保護者・地域等との連携協力状況について

- ・「学校に関する情報公開の状況」における学校ホームページの発信情報などの改善について、学校のホームページは、パソコン閲覧用の規格であるように思われる。生徒や保護者の多くは、スマートフォンで閲覧しているのではないだろうか。学校ホームページをスマートフォンでの閲覧規格に変更するだけで、保護者、生徒の提供情報の理解が改善されることも考えられる。
- ・課題の欄にあるように、教育活動の情報発信が大事だと思われる。「Y校はこういう学校です」と伝えていただきたい。人気があり競争率も高いので、入学した生徒ががっかりしないようにしてほしい。

□危機管理状況について

- ・避難経路を把握している生徒が約63%という結果である。避難場所・避難経路・方法について、周知徹底ができていると感じている先生方が約94%であって、先生方の認識と大きなずれがあるので、生徒へ改めて周知徹底を御検討いただきたい。
- ・校舎の老朽化については、かねてより気になっていたが、トイレの洋式化等により清潔感が増したことはよかったと思われる。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

- ・アンケート結果から、十分に対応できていると判断できる。ただし、いじめ対応に関する関連アンケート項目が、教職員、生徒、保護者すべて1問であり、1問のままであったとしてもより効果的な質問内容への改善や2問以上に増やすといった改善案が考えられる。また、いじめ対応への取組も、適切、妥当であるが、ホームルームなど教室内で実施する生活アンケートでは、他の生徒の目が気になり事実を回答できない生徒も多いといった報告もあるように聞いている。生徒が安心してありのままを回答できるようなアンケート方法についても今後の検討課題であると思われる。
- ・大きな問題も起きていないように感じる。生徒たちの自己肯定感を高めることが、いじめの防止になると思われる。
- ・区内では「いじめ」はなさそうであるが、どこまでが「遊び」で、どこからが「いじめ」なのかの区別がつきにくいと感じている。